

■ 自動車工学関連講座

製造現場の品質管理について（Webセミナー）（会員限定）

次世代自動車センター浜松では、新型コロナウイルス感染症対応として、昨年度より自動車工学関連講座として、新入社員及び若手技術者向けWebセミナーを実施することとしました。

今回は、その第3弾として、自動車関連部品の製造工程の品質管理方法についての基礎知識を習得して頂くことを目的に、当センターの眞崎コーディネータが講師となり、自動車工学関連講座「製造現場の品質管理について」をWeb形式で開催しました。

- 日時：令和3年6月25日（金）13時30分～14時30分
- 場所：web形式
- 参加者：47社/99名

**自動車工学関連講座
（新人・若手技術者向け）**

製造現場の品質管理

2021年6月25日
次世代自動車センター浜松

目次

- （1）製造品質とは…
- （2）工程管理（工程を安定した状態で管理する方法）
- （3）品質検査（製品の品質を正しく検査する方法）
- （4）品質改善（再発しない対策を打つための方法）
- （5）品質管理のまとめ

（1）-1 品質とは…

設計品質 狙い → 製造品質 出来栄 → お客様要求 品質

製造品質とは、安定した適正品質で製品を製造し、お客様に100%の良品を納めること。

「不良品を受け取らない」…受入れ検査
「不良品を作らない」…工程内検査
「不良品を流さない」…工程内検査、出荷検査

（4）-2 品質改善 -① 品質不良の見える化_1

品質不良の見える化は、問題を早期に解決させる為に、工程（4M）の変化点の異常を共有する。

（品質（稼働）ミーティングの実施）
目的）再発防止、横展（情報共有）、人材育成

朝ミーティングの例
・製造トップの旗振り
・毎朝30分間ミーティング
・前日の品質（稼働）状況を工程の関係者に報告する。

（現場でのミーティング風景（例））
「報・連・相」の場
品質管理ボード
製造トップ
品質・稼働状況報告者

製造トップは…
・再発防止対策として充分か判断する。
・不十分なら指導する。
・他の工程への横展開の指示などを行う。

工程責任者(B,C,D)は…
・自工程のメンバーへの情報展開
・展開事項の工程確認と必要な処置を行う。

（1）-2 品質管理の流れ

品質管理は、手段であり工程管理、品質検査、品質改善の3つの取り組みを通じて目的の製品を工程で保証すること。また、PDCAのサイクルを廻すことで安定した品質を確保できる。

製造の品質管理とは
工程で通り込んだ品質を適正な状態に維持管理し製品を保証する事。

品質改善
品質不良の原因を調べ発生防止の処置をする事。

品質検査
製品の品質が規格に適合しているか評価する事。

工程管理
製品を要求された品質で製造できるよう工程を管理する事。

P(S)DCAのサイクルを廻す

【参加者の声】

- 品質管理の具体的な手法を学ぶ良い機会だった。曖昧なままで作業している部分を作業標準書や限度見本等を作成して標準化していきたいと思う。
- 品質管理の業務に携わる者として理解しておくべき内容であり、具体例を交えての説明がされていたため分かりやすく大変参考になった。
- 製造現場だけでなく、再発防止活動などの取り組みは、どの職場でも共通して活用しなければならず、とても参考になった。
- 私の業務内容は品質検査の為、講座内容が常日頃困っている点や業務の進め方等の参考となる部分が多く、自身の部署内へフィードバックできる為、大変参考になった。
- 品質を守ることは人命を守ることに繋がり、品質も守る重要性を再認識させてもらった。
- 顧客へ提供する製品の品質を確保するためには、単に漠然としたルールを設けるのではなく、作業手順の標準化や問題点、変化点の見える化、不良の再発防止対策などが重要であり、それらをどうしていけばよいのかを講義の中で学ぶことができた。
- 品質管理とは、「工程管理」「品質検査」「品質改善」のPDCAのサイクルを廻して安定した品質の製品を生産する必要があることが分かった。
- 品質を改善・維持していくには三現主義に基づき行っていくのが大切だという事がわかった。作業標準書は誰が見ても分かり易くする必要性を感じた。
- 品質検査の中でも、受入検査、工程内検査、出荷(完成品)検査の4つの方法があり、全数検査、抜取り検査非破壊検査、破壊検査と種類にわかれていることを知ることができた。
- 品質管理を工程管理・品質検査・品質改善の3トピックに分解し、それぞれについてのまとめがあったため、内容が散り散りになっておらず理解のしやすさにつながっていた。
- 新入社員及び若手技術者が主な対象であったが、用語の補足説明もあったため理解を深めながら講座に参加することができた。
- 再発防止活動に関して、具体的な内容(標準類の改訂、教育、作業方法)がまとめられており、普段の業務にも活用出来る内容だった。